いしかわ まちづくりView（ビュー）

No. 58

目次

■特集　都市再生整備計画事業（鶴来地区・白峰地区）　・・・・1
■あのまち、このまち“まちづくりめぐり”
　森本駅周辺整備事業　森本駅東広場の完成　・・・・6
　いしかわ景観大賞について　・・・・7
■センターだより　・・・・8

特集

都市再生整備計画事業（鶴来地区・白峰地区）

＜ 鶴来地区 ＞

1　はじめに

鶴来地区は、白山麓地域の玄関口、白山比咩神社の門前町、製材業・醸造業等の産業拠点として古くから発展してきた歴史ある地域です。

しかしながら、近年の人口減少と少子高齢化、伝統産業・商業の不振など、本地区を取り巻く環境は年々厳しくなっております。さらに、北陸鉄道石川線の鶴来駅～加賀一の宮駅間の一部廃線により、まちなか来訪者数の減少や、空き店舗の増加等の問題を抱えていました。

また、本地区にある白山比咩神社や獅子吼高原、石川県ふれあい昆虫館等には、年間 90 万人もの来訪者があるものの、この来訪者をいかにまちなかに誘導するかも課題となっていました。

こうした地区の課題を踏まえ、平成 27 年度より「観光拠点から“まちなか”への来訪者の誘導と、住民が歩いて楽しい“まちなか”の仕掛けづくり」を目標とする都市再生整備計画事業を策定し、これまで 5 年間をかけて事業を推進してきました。

2　都市再生整備事業について

都市再生整備計画事業は、地区の問題・課題解決のため、ハード・ソフトの両面から様々な事業をパッケージ化して推進する計画事業です。鶴来地区においても、地区が持つ様々な資源を活かすことを念頭に事業を推進してきました。

この度、都市再生整備計画事業が完了しましたので、地区のまちづくりとあわせて、事業概要とその実施効果をご紹介させていただきます。

《まちづくりの目標と地区の課題》

目標	観光拠点から“まちなか”への来訪者の誘導と、 住民が歩いて楽しい“まちなか”の仕掛けづくり
課題	①来訪者をまちなかへ誘導するハード整備や仕掛けづくり ②まちなかを周遊するネットワーク交通網の確保 ③豊かな自然や伝統・文化を活かした観光資源の整備

3　事業概要

【主な整備内容（ハード事業）】

・表参道乗り入れ道整備
　（施工延長：600m、幅員 8.0m）
・旧加賀一の宮駅周辺整備
・旧加賀一の宮駅サイクリングターミナル整備
・案内誘導サインの整備（整備箇所 10 箇所）
・駐輪場の整備（整備箇所：6 箇所）

▲ 表参道乗り入れ道整備

▲ 旧加賀一の宮駅周辺整備

▲ 旧加賀一の宮駅
　サイクリングターミナル整備

▲ 案内誘導サインの整備

▲ 駐輪場の整備

【主な整備内容（ソフト事業）】

・サイクルツーリズム実証実験

▲ サイクルツーリズム実証実験（はくさん GO レンタサイクル事業）

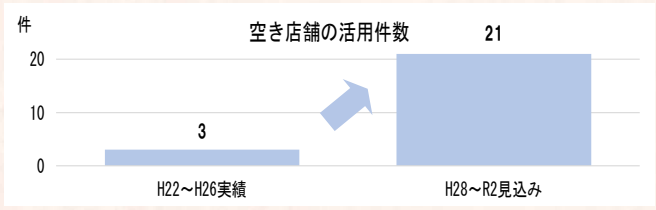
4　事業の効果

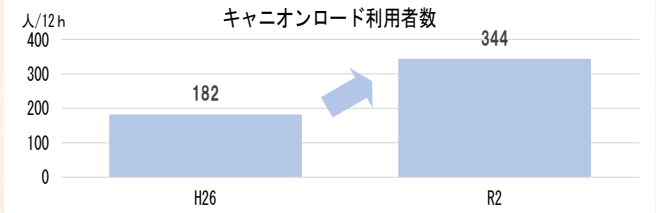
都市再生整備計画事業の効果を把握するため、計画を策定した当初に、評価を行う指標を以下のとおり、３つ設定しました。

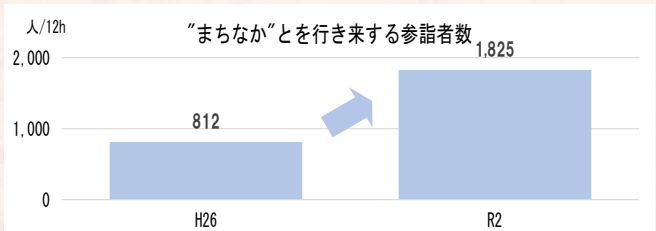
《設定した指標》

指標１	空き店舗の活用件数（件／年）
指標２	キャニオンロード利用者数（人／日）
指標３	“まちなか”とを行き来する参詣者数（人／日）

今回、すべての事業が完了したことを踏まえ、その実施効果を確認いたしましたところ、すべての指標で想定以上の効果が確認できました。特にキャニオンロード利用者数、“まちなか”とを行き来する参詣者数は、コロナ禍の中にも関わらず、事業前（平成 26 年）と比べて大幅な伸びを示しています。







▲ 各指標の事業前後比較

５　まちづくり活動

平成 24 年に地区のまちづくり方策についてまとめた「鶴来まちづくり活性化計画書」が策定され、この計画を実行するため、平成 25 年に「鶴来まちづくり協議会」が設立されました。協議会設立当初から、まちづくりについて検討を行い、平成 27 年からは、地域住民自らがまちづくりを実行し、様々な課題を把握して意見を集約し、事業やまちづくりの参加者と連携するため、組織改編を行い、以下のプロジェクトチームを設立してそれぞれ独自の活動に取り組んでいます。

・旧加賀一の宮駅舎利活用プロジェクトチーム
・サイクルタウンプロジェクトチーム
・獅子吼活性化プロジェクトチーム
・語り部プロジェクトチーム
・こびとづかんの町つるぎ実行委員会

６　おわりに

都市再生整備計画事業の実施ほか、地区住民のまちづくり活動、白山開山 1300 年関連イベントなどにより、現在、地域には多くの方々が訪れています。

今後は、石川県が進めている鶴来本町通り線の無電柱化事業や、白山手取川ジオパークの世界ジオパーク登録に向けた動きなども相まって、地区に訪れる方々と地域にお住いの住民それぞれが良い地区だと感じられるよう、引き続き地域づくりを推進してまいります。

【問合わせ先】
白山市鶴来支所総務課
TEL:076-272-1112
E-mail:tu-soumu@city.hakusan.lg.jp

▲ モモの木植樹イベント ▼

▲ こびと探しツアー

＜ 白峰地区 ＞

１　はじめに

平成 24 年 7 月、白峰地区は国の重要伝統的建造物群保存地区（以下「重伝建地区」という。）として選定を受けました。

白峰の重伝建地区は、日本屈指の豪雪地帯である自然と風土がつくりあげた独特の伝統的生活様式を残しており、民家の外観には黄土色の大壁や縦長の窓が連続してみられるという特徴があります。また、これらの伝統的建造物群をはじめ、厳しい自然環境にある山村集落として、良好な歴史的風致が維持されています。

▲ 旧山岸家住宅（国指定重要文化財建造物）

さらに、白峰地区では、伝統的な街並み景観の向上を図るとともに、人口減少や高齢化が進行する中、「雪だるままつり」をはじめとする住民が主体となった活動や情報発信に取り組み、交流人口の拡大や賑わい創出を図ってきました。

▲ 雪だるままつり

２　都市再生整備計画事業について

白峰地区は、平成 19 年度から平成 21 年度にかけて、都市再生整備計画事業を活用し、「白峰温泉総湯」や「特産品販売供給施設：菜さい」の整備、まち歩きマップの作成等により魅力向上を図りました。

▲ 白峰温泉総湯

▲ 特産品販売供給施設『菜さい』

この第一期事業で、基盤的な施設は整いましたが、これら施設や伝統的街並みなど、魅力的な地域資源を結ぶ環境整備や観光情報の発信・PR 不足、アクセス性の向上等が課題となりました。

３　事業概要

第一期の課題を受け、白峰地区のさらなる来訪者増加と観光振興を図るため、白山市では平成 25 年 8 月に「白峰重要伝統的建造物群保存地区観光誘客対策計画書」を立案しました。また、同計画に基づき、平成 27 年度より第二期の都市再生整備計画事業に着手しました。

第二期では、重伝建地区を核に、温泉や高山植物などの地域資源を回遊できる環境を整備するとともに、地区住民が主体となった取り組みや情報発信などのまちづくり活動を活性化し、地域のおもてなし

向上を図ることで、白峰の観光が産業としてさらに確立し、交流人口の増加や白峰地区の賑わいを創出することを目指しました。

【主な整備内容】

・白峰中央通 1 号線無電柱化
・案内標識等改修
・まちなか案内看板設置
・トイレ整備
・石積水路（ミンジャ）整備
・ポケットパーク整備
・憩いの施設整備

特に、白峰地区の歴史的風致と調和する景観形成や建造物保存により地域資源の魅力を向上させるとともに、駐車場やサインの整備を行い、観光客を受け入れる環境づくり『古(こ)まちなみ計画』を推進するため、林西寺前から南へ約 290m区間のメイン通りを無電柱化し、重伝建地区の景観保全と観光客が快適に散策できる環境を整備しました。

▲ 無電柱化事業

また、白峰地域特有の水場であるミンジャを復元し、用水のある街並みとして観光地としての魅力アップを図りました。

▲ 石積水路（ミンジャ）

4　まちづくり活動

白峰地区では、平成 20 年に設立された NPO 法人白峰まちづくり協議会や白峰観光協会、NPO 法人白山高山植物研究会などの地域の団体により毎年様々な地域活動を展開しています。

▲ 白峰まちづくり協議会によるイベント

また、平成 30 年からは地域資源の循環により地域の課題解決を目指す白峰林泊推進協議会が発足され、ガイドツアーの育成や空き家問題、移住対策に取り組んでいます。

▲ 林泊推進協議会の活動の様子

5　おわりに

白峰地区のまちづくりは、平成 17 年の市町村合併を機に、過疎化への危機意識の高まりから地域住民が主体となって取り組んできました。近年では地元大学とのコンソーシアムによるまちづくり活動等も盛んになっており、白峰を愛する若者たちのＩ・Ｕターンも増加しています。今後も活動を継続し、さらなる地区の活性化を目指したいと考えています。

【問合わせ先】
白山市観光文化スポーツ部施設管理課
TEL：076-272-4800
E-mail：shisetsu@city.hakusan.lg.jp

森本駅周辺整備事業　森本駅東広場の完成

１　はじめに

森本駅は、金沢北部の重要な公共交通機関の結節点であり、これまで北陸新幹線事業に併せて、森本駅の橋上駅化や自由通路、東西広場の整備を進めてきました。

森本駅東広場においては交通結節機能の更なる充実や、地域の玄関口にふさわしいにぎわいづくりなどを目的に、森本駅東広場の整備を行い、令和３年３月に完成しました。

２　事業の概要

交通機能の向上・充実

乗降場や駐車場への円滑な車両動線を確保するため、広場外側車道をロータリー化し、アクセス性・安全性が向上しました。また、分散していたバス停を駅の正面に集約・整備し、バスの利便性を高めました。これまでＪＲバス１社が森本駅に乗り入れていましたが、令和３年４月より北陸鉄道バスも森本駅へ乗り入れしています。

雨に濡れずに移動や乗降ができるシェルター

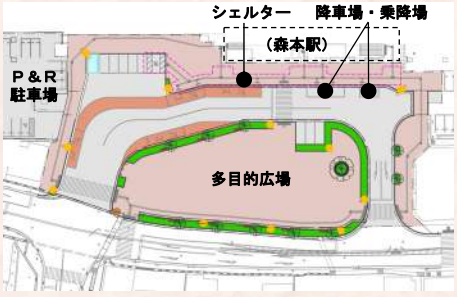
乗降場や降車場に面した場所に、シェルターを整備し、雨天時・夜間時でも安全に、快適に移動できるようになりました。

公共交通への乗換拠点の整備

公共交通機関の利用促進や道路交通の混雑緩和のため、パーク･アンド･ライド駐車場を整備しました。

多目的広場の整備

地元と協議しながら維持管理や活用のための枠組みをつくり、地元商店街や町会等から成る「もりえき広場活用協議会」において広場の活用をとりまとめ、にぎわいを創出する土台ができました。これらを基に地域の活性化・にぎわいにつながる憩いの空間として多目的広場を整備しました。



▲　整備計画図

３　経緯

平成 10 年　森本駅周辺まちづくり協議会により森本駅周辺整備基本計画を策定

平成 14 年　橋上駅舎、自由通路、駅西広場を整備

平成 21 年　森本駅東広場整備・活用検討委員会により森本駅東広場整備基本計画を策定

平成 26 年　森本駅東広場整備事業　着手（設計・測量・用地）

令和元年　森本駅東広場整備工事　着手

▲ シェルターとロータリー

▼ 多目的広場

４　施設概要

・施工面積　約 4,450 ㎡（うち多目的広場 1,730 ㎡）
・シェルター設置（Ｌ＝76m、Ｗ＝2.8m）
・多目的広場整備（平板舗装、木質ベンチ、植栽）
・歩車道整備、消融雪整備
・パーク･アンド･ライド駐車場　Ａ＝960 ㎡
（収容台数　最大 23 台）

５　おわりに

事業の完了に伴い、令和３年３月 21 日（日）に完成式が執り行われました。

今後、交通結節拠点として、また、にぎわいの拠点として多くの方々に末永く親しまれることを心より期待しています。

【問合わせ先】
金沢市都市整備局都市計画課
TEL:076-220-2353
E-mail:tokei@city.kanazawa.lg.jp

第27回いしかわ景観大賞について

1　はじめに

「いしかわ景観大賞」は、県民の皆様の景観に対する意識を高めることを目的に、良好な景観の形成に顕著な活動を行った団体又は個人を顕彰するもので、今年度で 27 回目となります。県民お一人おひとりの景観づくりの取組みが、ひいては地域の個性を磨き、品格を高め、交流人口の拡大や地域の活性化に大きな効果をもたらすことを願っています。

2　受賞作品（第 27 回いしかわ景観大賞・景観賞）

いしかわ景観大賞

□ いしかわ景観大賞

金沢駅西広場シェルター・キャノピー

所 在 地／金沢市広岡１丁目

受 賞 者／金沢市、㈱国土開発センター、
兼六・吉田特定建設工事共同企業体、㈱豊蔵組

選定理由／既存の広場との調和に配慮しながら、隣接する商業施設等と一体的な整備を図り、魅力ある景観を形成し、木の温もりと天候に左右されないにぎわいのある歩行空間を創出している。

いしかわ景観賞

□ いしかわ景観賞

のと九十九湾観光交流センター　イカの駅　つくモール

所 在 地／能登町越坂

受 賞 者／能登町、㈱浦建築研究所、
アントール・西中特定建設工事共同企業体

選定理由／日本百景に選ばれた風光明媚で穏やかな九十九湾に立地し、外観は能登半島国定公園に配慮した自然な仕上げであり、また、木造平屋造で圧迫感が無く、湾の風景と一体となり、自然景観との調和を図っている。

いしかわ景観賞

□ いしかわ景観賞

近江町ふれあい館

所 在 地／金沢市上近江町

受 賞 者／近江町市場商店街振興組合、大口水産㈱、
㈱アール・アイ・エー、兼六建設㈱

選定理由／周辺道路からの景観・街並みとの調和、近江町いちば館等の既存施設との調和、市場内店舗との連続性等に配慮し、「市民の台所」近江町市場の利便性向上と賑わい創出に寄与する環境・景観整備を図っている。

【問合わせ先】
石川県土木部都市計画課　TEL:076-225-1759
E-mail:toshikei@pref.ishikawa.lg.jp

センターだより

～まちづくりリーダー研修会を開催しました～

■　県内各地のまちづくり活動団体が集結

当センターは、“将来のまちづくりを担う子どもたちと一緒にまちを知り、考える活動を支援する**「いしかわこどもの未来創造まちづくり事業」**”と“地域の風土・食・伝統をテーマとしたまちづくり活動を支援する**「我（和）がまちづくり（いしかわ地域の魅力創造まちづくり事業）」**”の二事業を行っています。

先般、金沢港クルーズターミナルにおいて、今年度の当助成事業の活動報告の場として、「令和２年度 まちづくりリーダー研修会」を開催しました。密集を避けるため二部制での開催とし、のべ７４名の皆様にご参加いただきました。

■　開催概要

＜開催日時＞

令和３年２月 21 日（日）【第１部】10:00～12:00

【第２部】13:00～15:00

＜開催場所＞

金沢港クルーズターミナル　２階セミナールーム

＜内　　容＞

【第１部】我(和)がまちづくり活動報告(6 団体)

【第２部】いしかわこどもの未来創造まちづくり事業 活動報告（7 団体）

■　活動報告

今年度、助成を受け活動した１３団体から１年間の取り組みについて活動報告がありました。コロナ禍における地域活動の難しさは言うまでもありませんが、それでも今できることを、今だからこそ地域に、そして子どもたちに必要な活動は何かを各団体が模索し、オンラインや ICT 技術を活用した最先端の取り組みや、離れていても参加者の心が通じる俳句の取り組み、子どもたちが元気のない地域の飲食店をチラシで応援する取り組みなど、今年度ならではの各種発表を聞き、多くの参加者が感銘を受けました。

▲ 活動報告の様子

■　認定書交付式

報告会の最後には、１年間の活動をたたえ、認定書の交付が行われました。

▲ 認定証交付式・記念撮影

■　参加者の声

・コロナ禍の中で、どの団体も工夫して活動していた。
・子どもたちの自発的な提案など、いろいろな新しい取り組みがあって大変良かった。
・自分たちでは気付けないまちづくりのアプローチが多くあった。
・いろいろな活動やその目的があり、大変興味深かった。地元の活動へ活かしていきたい。
・子どものパワー最高！感動した。

■　動画配信

当日の発表動画をセンターＨＰで配信しています。是非ご覧ください。

https://www.machisen.jp/machi/yousei.php

編集後記

今年度は新型コロナウイルス感染症の流行によりいろいろな行動が制限されるなか、様々な工夫を凝らして活動を続けている団体がたくさんありました。“コロナ禍でもできること”という新たなアイディアを出していくことで、コロナ収束後においても活動の強みになるのではないでしょうか。

当センターでは、皆様のまちづくり活動を支援するとともに、まちづくりに関する情報発信に努めています。お気軽にお問合せください。

編集協力：石川県(都市計画課)、金沢市、白山市
発行：公益財団法人 いしかわまちづくり技術センター
TEL：076-239-1616　　FAX：076-239-1606
ＨＰ：https://www.machisen.jp/
発行日：令和3年3月